

日本語の「のだ」文と中国語の“是……的”文  
Japanese “*noda*” Sentence and Chinese “(shi)……de” Sentence

王 学群

WANG Xuequn

提要：本文以奥田靖雄发表于『ことばの科学 10』（むぎ書房、2001：175-202）の「説明（その4）一話しあいのなかでの『のだ』一」为主，探讨了各个用法的例句是否能够翻译成汉语“是……的”句的问题。初步搞清了日语会话中的「のだ」句与汉语“是……的”句的对应关系。当聚焦于已然事件的未知成分时，一般「のだ」与“是……的(1)”具有对应关系；当表示说话人对主语加以主观断定、推测、评价、归类等时，有时与“是……的(2)”具有对应关系。但是，用于表示原因、理由、命令等的「のだ」句一般与“是……的”句不具有对应关系。

キーワード：未知の部分、理由・原因、重大な意味、特徴づけ、命令、現象の本質の特徴

目次

- 1 はじめに
- 2 基本用法
- 3 重大な意味をおしえる「のだ」文
- 4 特徴づけに使用される「のだ」文
- 5 理由の説明(その1)
- 6 理由の説明(その2 — 動機・根拠 —)
- 7 現象の本質の特徴—派生的な場合
- 8 論理の展開過程での場合
- 9 奥田論文の7つの用法に対する対応性
- 10 日本語の「のだ」文と中国語の“是……的”文の異同
- 11 おわりに

引用文献

1 はじめに

本稿では、奥田靖雄（『ことばの科学 10』むぎ書房、2001：175-202）の「説明(その4)

一話しあいのなかでの『のだ』一」をもとに、それに対応する中国語表現を検討する。奥田(2001)は、具体的な場面の中で使用される、「のだ」をともなう説明の文の「場面的な意味」に注目してその意味用法を大きく7つのタイプにわけている。以下は、奥田(2001)の各意味用法の例文を中国語に訳すとどうなるかを検討し、中国語の“是……的”文との対応関係を考える。

## 2 基本用法

2.1 奥田(2001: 176-183)によれば、「日本語では、部分的な問いだしをさしだす〈たずねる文〉は、かなりしばしば「のだ」をともなっている(奥田:176)」。この場合、「たずねる文」では、その意味が既知の部分と未知の部分に分かれて(奥田:176)いる。話し手は、知りたい未知の部分、知っているあい手にとりかけ、教えてもらう。

- (1) 「だれが入院しているんだい?」顔みしりの刑事はちいさい声で、「実はブンヤに気づかれると、こまるんだからがね、麻布の鬼頭洪太がはいっているのだ。」(けものみち、奥田 2001 : 177)
- (2) 「さんざ悪態をついて、どこにゆくんだ。」  
「あなたの敵、あなたのきらいな人のところにゆくんです。」(杏っ子、奥田 2001 : 177)
- (3) 「一人ではやれないはずだが、だれとやったのだ?」「平之介が手つだったのです。」  
(杏っ子、奥田 2001 : 177) <sup>1)</sup>

訳:

- (1) “(是)谁住院了?”……。“老实讲,让记者知道了就不好了,(是)麻布的鬼头洪太住院了。”
- (2) “话说得那么难听,你(是)去哪儿?” “(是)去你的死对头,你不喜欢的人那儿。”
- (3) “你一个人应该干不了,是跟谁干的?” “是平之介帮的我。”(“是……的(1)”) <sup>2)</sup>

奥田(2001)によれば、この場合、「話し手Aと話し手Bとの話しあいのなかには、《たずねる・おしえる》の通達の構造ができあがっている(奥田:77)」という。例(3)は実現済みの出来事で、“是……的”に訳せるが、例(1)(2)は現在と未来の出来事を表している。この場合、未知の部分にフォーカスしていても“是……的”に訳すことができない。ただし、“是”だけなら可能である。

2.2 「部分的なたずねる文への回答が、かならず「のだ」をともなう、ということにはならない(奥田:177)」。この点では、中国語も同じである。

<sup>1)</sup> 日本語の例文の下線は奥田(2001)のママである。各例文の中国語訳は、基本的に下線部分を中心に筆者が翻訳したものである。また、日本語の例文との対応性が見られる場合は、“是……的”訳文の文頭に「○」をつけている。

<sup>2)</sup> 吕叔湘(2010: 497-499)・刘月华(2009: 762-784)を参照。また、中国語訳文の中の“是”を括弧でくくったものがある。それは“是”をいれてもよいという意味である。勿論、“是”がある場合とない場合は語気が異なる。

(4) 「なんでたいたのかな？」 「この電気炊飯器ですけど。いけませんか？」 (化身、奥田 2001 : 178)

(5) 「だれとあっていたのだ？」 「知っている人よ。」 (化身、奥田 2001 : 178)

(6) 「そんな人とどこでしりあったんだ？」 「エステティックサロンよ。」 (化身、奥田 2001 : 178)

訳:

(4) “是用什么做的?” “这个电饭锅。不可以吗?”

(5) “你是跟谁见的面?” “认识的人呀。”

(6) “你跟他是在哪儿认识的?” “美容店啊。”

例(4)~(6)では、「話し手のしりたいことが疑問詞のなかにつめこまれていて、こたえる文はそこを明らかにすれば、完結する(奥田 : 178)」ので、「たずねる文とこたえる文はおなじひとつの出来事をさしだしている(奥田:178)」。例(4)~(6)の質問文は、いずれも実現済みの出来事で、「是……的」に訳することができる。

2.3 「こたえる文にとって『のだ』をともなうのが義務的であるばあいがある(奥田:178)」。たとえば、『なぜ』『どうして』をふくみこむ、部分的なたずねる文は、出来事の原因、理由を明かにすることを求めている(奥田:178)。そのもとめこたえる文は、たずねる文にさしだされる出来事の原因、理由を明かにする(奥田 : 178)。

(7) 「ぼくはのみません。」 「おや、なぜ?」

「のみたくないから、のみないんです。」 (或る女、奥田 2001 : 178)

(8) 「先刻ね、りさ子さんがきたよ。君とよくあそんだりさ子だよ、山本りさ子。」

「りさ子がどうしてきたんです。」

「とつぜんぶらりとやってきた。やはりおもしろいことでもないかと、そんな気で、年ごろだから、やってきたんだ。まあ、美人といってもいいね。」 (杏っ子、奥田 2001 : 179)

訳:

(7) “我不喝。” “啊,为什么?” “不想喝。所以不喝。”

(8) “刚才梨沙子来啦。就是经常跟你玩儿的梨沙子,山本梨沙子。”

“梨沙子怎么来了?” “突然一下儿就来了。也许她觉得好玩儿。年轻人嘛,所以就来啦。”

この場合、「まだ絶対的だとはいえない(奥田:178)」という。次は絶対的な義務の場合である。

(9) 担架から治療台にうつされた隊長は、開襟シャツをきて、軍袴にくろい長靴をはいていた。

「なぜ靴をばぬがさんのだ。」と、いきなり軍医が上田縦卒をしかりつけた。

「はい、左足の脛が骨折らしいのであります。靴をぬきとろうとしますと、そうすると、ひじょうに苦痛をうったえられるのであります。」と上田従卒がこたえた。(遥拝隊長、奥田 2001 : 179)

- (10) 「どうして朝からいっておいとくだらないの？夕飯のしたくがむだでしょう。」  
「うむ、わすれていたんだ。」(洒落た関係、奥田 2001 : 179)

訳:

- (9) “怎么不把靴子脱下来呢?” “啊,好像(是)左小腿的骨头断了。一脱靴子他就……”  
(10) “怎么早晨不告诉我呢?白白准备晚饭。” “啊,(是)我忘啦。”

この場合、「たずねる文のもとめにこたえる文は、たずねる文のさしだす、ひとつの出来事Aとはことなる。べつの出来事Bをさしだしている。そして、これらのふたつの出来事のあいだには、条件づけと条件づけられの因果関係がなりたっている(奥田:179)」この用法は、中国語の“是”の使用が可能である。

2.4 奥田(2001)によれば、「どうして?」で現象の本質を尋ねる場合がある。この場合、「こたえる文の話し手は、現象の本質、現象の意味をあかすみにだしてみせる。ことの本質を説明する、この種のこたえる文もふつう『のだ』をともなっている(奥田:179)」という。

- (11) 「おい、おい、どうした?」という父の声に気づくと、私は廊下をどたどたふみならして、ゆきつ、もどりつしているところだった。  
「うん、耳のなかに虫がいるんだ。」(ガラスの靴、奥田 2001 : 179)  
(12) 「姉さん、おあがりよ。」「えっ?なぜ?もういやになったの?」「そ じゃないんだ。いいからそっちのはじからおあがりよ。」「だって、……どうしたのよ?」  
「……姉さんにいっしょにたべてもらいたいと思っただけなんだ。」(おとうと、奥田 2001 : 180)  
(13) 「どうしたの、こんなにおそく?」「おれの本ができたんだよ。」(凍てる土、奥田 2001 : 18)

訳:

- (11) “喂,喂,你干什么呢?” “啊,(是)耳朵里进虫子了。”  
(12) “……怎么啦?” “……我只是想跟姐姐一起吃饭”  
(13) “你怎么啦,这么晚?” “(是)我的书出版啦。”

この3例も“是……的”文に訳せないが、“是”なら可能である。

2.5 次は「どうするんだ?」の場合である。たずねるのは過去に起こった出来事ではなく、「これからおこなわれる出来事(奥田:180)」である。この場合の「『のだ』をともなう説明の文は、あい手のおこなうべき動作、動作のし方をあい手におしえている。かならずし

も《命令》の意味を実現しているわけではない(奥田:180)。

- (14) 「まだ子どもよ。ねえ、お風呂へは行って、それからどうするの?」  
「それから二人で寝床にはいるんだ。」(洒落た関係、奥田 2001 : 180)
- (15) 「玉子ならございまっす。」「その玉子を半熟にしてきてくれ。」「なににいたします?」「半熟にするんだ。」「にて参じますか?」「まあにるんだが、半分にするんだ。半熟をしらないか?」(二百十日、奥田 2001 : 181)
- (16) 「どういう交渉でしょうか。」「半分にまけてもらうんだ。」(命なりけり、奥田 2001 : 181)

訳:

- (14) “还是个孩子呢。哎，洗完澡干什么?” “之后，我们俩上床睡觉。”
- (15) “做成什么?” “(是)做成半熟。” “是煮吗?” “啊，煮是煮，但(是)要煮得半生。”
- (16) “(是)什么交涉呀?” “(是)要对方把价格降到一半。”

やはり、“是……的”文に訳せないが、“是”なら可能である。

2.6 「この種の説明文は、《たずねる・おしえる》の話しあいの構造のそとに使用されるときには、その《おしえる》という意味はうすれて、/あい手に動作を命令する、すすめる、さそいかける、忠告する/という意味あい全面にでてくる(奥田:181)」。この場合でも「《おしえる》という説明的な意味がきえてしまったわけではない(奥田:181)」。

- (17) 「その調子、いい線いってるよ。美波!もっと手も足も自由にうごかして、おおまたにあるくんだ。とぶようにかけてもいいよ。」(あなたにだけ、奥田 2001 : 181)
- (18) 「わたし、羽田から外国へゆく人をおくったことがないので、おくってゆきたいの。」  
「よし、おくってくれ。さようなら、といて、手をふるんだな。」(憂愁平野、奥田 2001 : 181)
- (19) 「だって、ことのいきさつが駄目らしいじゃないか。むこうはその気がないっていうんだろう。気のないものはし方がないよ。あきらめるんだな。」(洒落た関係、奥田 2001 : 181)

訳:

- (17) “对，就那样，不错，不错。美波!让手脚(自由)摇摆得更大一些，迈大步往前走。”
- (18) “好，你去送吧。送时要挥手说再见啊。”
- (19) “可是，实际情况好像并不很乐观呢。对方会说没这个意思的吧。没这个意思的话，也就没办法，只好死心了。”

奥田(2001)によれば、上述したあい手への命令、すすめ、さそいかけ、忠告などの意味合いは、「のだ」の「言語学的な意味ではなく、『のだ』をともなう文を場面のなかで使用することから生じてくる、プラグマチカルなものであるだろう(奥田:182)」という。“是……的”にはそういう用法がない。

2.7 奥田(2001)によれば、「あれはなんだ？」というたずねる文にこたえる文は「のだ」をともなわない場合とともなう場合がある。ともなう場合、「はなし手は現象の本質的な特性、あるいは、現象のもっている社会的な意味をとらえていて、出来事の単純な記述をしているわけではない(奥田:182)」という。

(20) 「なんだ、虫は？」「蛾だ。蛾だと思うんだ。……ちよつとのぞいてくれないか？」(ガラスの靴、奥田 2001:182)

(21) 「ありゃなんだ？」「浜の女さかな売りなんだよ。」(杏っ子、奥田 2001:182)

訳:

(20) “什么，虫子？”“蛾。我想是蛾。……你去看一下，好吗？”

(21) “那是什么呢？”“那是海边的女人在卖鱼呢。”

奥田(2001)によれば、第2節の「いずれの《説明の文》も《たずねる・おしえる》の話しあいの構造のなかにあつて、/あい手のしらないことをおしえる/ということでは、共通である(奥田:182)」。また、奥田(2001:182-183)は、「『のだ』をともなう文の仕事は、初步的な、出発点的な説明の文から論理的な説明の文へとひろがってゆく。論理的な説明の文の仕事は、ひとつは現象の背後にかくれている出来事をとらえて、おしえることでもあるし、もうひとつは原因あるいは理由としてはたらく出来事をとらえて、おしえることでもある。さらに、『のだ』をともなう『説明の文』は、対象の本質的な、質的な特性をえぐりだして、あい手におしえる、高級な文へと発展してゆく。」と、「のだ」をともなう話しあいのなかの説明の文の展開のしかたを説明している。

### 3 重大な意味をおしえる「のだ」文

3.1 奥田(2001)によれば、一番単純なたずねる文は「どうした？」「なにをした？」という。この場合、「《記述のかたち》をとったり、《説明のかたち》をとったりする(奥田:183)」。どの形でも《たずねる・おしえる》の意味的な関係がなりたつ。

(22) 飛行機がとびたつたところで、秋葉は絵はがきを投函してこなかったことに気がついた。

「君は、どうした？」「私は、けさホテルをでるとき、コンサージュに渡してきたわ。」(化身、奥田 2001:183)

(23) 「ねえ、なにしているの？」こんなきき方をしてくるときは、かならず店がひまなときである。「仕事をしているんだよ。店のことですっかりおくれってしまったか

らね。」(化身、奥田 2001 : 183)

訳:

(22) “你怎么回事啊?” “我今天早上离开饭店时,交给了前台呀。”

(23) “哎,干什么呢?” “工作呢。……”

例(22)は“你是怎么搞的?”に訳せるが、例(23)は動作が進行中なので“是……的”文に訳せない。

3.2 奥田(2001)によれば、「たずねる文が先行していても、『のだ』をとともなう説明の文が、/おしえる/という機能的な意味をたもちながら、つかわれている。はなし手は、あたえられた場面のなかで、さしだされる出来事に重要な意味をみてとっていて、あい手に教えなければならないのである(奥田 : 183)」という。

(24) 浅草のおおきなカフェーにおいて、友だちにいじめられ、でてきたんだけど、浅草の占師にみてもらったら、神田の小川町あたりがいいって、いったので、きたのだといていた。お計さんが「おい、ここは錦町になってるんだよ。」といったら、「あらそうかしら……とつまらなそうな顔をしていた。」(放浪記、奥田 2001 : 184)

(25) 縁だけ刺しゅうのしてある、しろい、品のいい前かけは、つる子のあどけない顔つきをいっそうあいらしくしてみせた。「東京のおぼさんがくださったんです。」と、操はつけだした。(奥田 2001 : 184)

(26) 「ホラ! おふねだよ、よくみておおき、あれで外国へゆんくんだよ。あれは起重機ね、荷物が空へあがっていったろう。」(奥田 2001 : 184)

訳:

(24) “哎,这儿是锦町呀。”

○(25) “是东京的婶子给我的。” (“是……的 (1)”)

(26) “快看! 船。你好好看看,真大!坐它能去外国呢。”

例(25)は、すでに実現済みの出来事の未知の部分に焦点をあてている場合なので、“是… …的”文に訳されたと考えられる。

3.3 奥田(2001)によれば、「『のだ』をとともなう文は、話しあいの過程において、あい手の態度を変更させるほどの重要な意味をもっている出来事をおしえ(奥田:184)」る場合があるという。この場合、「そうすることをあい手にもとめている(奥田:184)」。

(27) 「たしかに新聞社にはゆきましたよ。」

久垣は顔なじみのそば屋のおやじがだした、お茶がわりのそば湯をのんでいった。  
「しかし、その手紙というのは、つまらんものですよ。なんでもない内容です。それに金なんかもらっていないですから、係長さんにわざわざきていただいて、

しかられることはないと思いますがね。」

「ぼくはあれをよんだのだよ。」係長がしずかにいったので、久恒はどきんとなった。(けものみち、奥田 2001 : 184)

- (28) 「小滝さんはその娘さんとなかよくしているそうですが、先生はしってらっしゃるんでしょう?」「ぜんぜん、しらんね。そういちいち小滝の行動を監視しているわけではないから、あいつがなにをやってるか、ぼくにわかるわけではない。」「確實なところからきいてきたんです。」「それじゃ、君のほうがよくしってるはずだ。……そうか。小滝はあれでなかなかの好男子だからな、女にはもてるほうだ。君がそうきいたのなら、そうかもしれない。」(けものみち、奥田 2001 : 184)

訳:

- (27) “我是看过那封信的。” (“是……的 (1)”)  
○(28) “我是从可靠的人那儿听来的。” (“是……的 (1)”)

この2例も、すでに実現済みの出来事の未知の部分に焦点をあてている場合なので、“是……的”文に訳されたと考えられる。

3.4 次はあい手に重大な事件を教えている場合である。

- (29) 「あのね、パパ……」と和彦はすわるなり、いった。「おれ、今度、この人と婚約したんだ。いいでしょう。白石芳江っていうんだよ。」(けものみち、奥田 2001 : 184)  
(30) 「ところでな、神谷君にひとつ重大なたのみがあるんだ。これはぜひきいてもらいたい。」(金環蝕、奥田 2001 : 184)  
(31) 「奥さん、びっくりしてはいけませんよ。……ご亭主が火事でなくなられたんですよ。」(奥田 2001 : 185)

訳:

- (29) “我, 这次, 跟她订婚啦。可以吧。她叫白石芳江。”  
(30) “不过呢, 有件重要的事情想求神谷。……。”  
○(31) “你可别惊讶! ……你丈夫就是因火灾死的呀。” (“是……的 (1)”)

例(31)の「のだ」と“是……的”との対応性が見られるのも、やはりすでに実現済みの出来事、かつ未知の部分に焦点をあてているからである。

3.5 次は幾つかの継起的な出来事のなかで重大な意味をもつ出来事をおしえる場合である。話し手は聞き手にその出来事に注意を向けさせる。

- (32) 「順序をおっていおう。まず、もどり道のことだがね。あのちかくに生命保険の出張所がある。あんたは気がつくまいが、あの晩、その二階では、外交員たちが徹夜でマージャンをやっていたんだ。」



「……」「ちょうど五人マージャンでね、一人が一荘ごとにやすむことになっていた。ところが、一時をちょっとすぎたころ、そのうちの一人がゲームにつかれ、窓ぎわにいて、したをみていたんだ。一時すぎといえ、その火事がおこってから、まもなくだね。」

「……」「その外交員の名まえもとっているが、ここであんたにいう必要はなかろう。それで、彼が下をみると、そのまえの道路に一台のタクシーがはしってきて、とまったというんだ。みると、ひとりの女がそれをとめたんだ。彼はこんな夜ふけに女がひとりでうろろうしてるのはあぶないなと思って、それでよく注意をしたというんだがね。洋服でくろっぽいものをきていたというんだ。」(けものみち、奥田 2001 : 186)

訳:

(32) “那天晚上, 那个2楼上, 推销员们一直在通宵打着麻将呢。”

“不过, 一点过后, 有一个人玩麻将玩累了, 就到窗边往外看了看。”

“他说, 往下一看, 就发现前面的路上开过来了一辆出租车, 并停在那里。……所以, 才引起了他的注意。据他说那个人穿着黑色调的时装。”

第3節(重大な意味をおしえる「のだ」文)の「のだ」をともなう文が、「話しあいの参加者にとって重要な意味をもっている出来事をあい手におしえている、ということでは共通である(奥田:186)」。

#### 4 特徴づけに使用される「のだ」文

奥田(2001)によれば、前述した「あれはなんだ?」という、たずねる文にこたえる文は、現象としての出来事の本質的な特徴、あるいは意味をとらえて、たずねる人におしえている。しかし、このようなたずねる文が先行していない場合でも可能である。

4.1 現象としての出来事が先行するテキストのなかに、目の前に起こっていることとして、記述される場合がある。

(33) 「くそ、まだいかないか。二度とここにくるな! はやく退散しろ!」

手に棒をもった雑色が、にげていく人をおいかけた。

「乞食をおいたてているのです。おだやかにいえば、わかることを、ああいう雑色は、権威をかさにきて、よわい者いじめをするのです。」(親鸞、奥田 2001 : 187)

訳:

(33) “他们(是)在驱赶乞丐。讲得文明一点儿, 大家知道, 那些人(是)在仗势欺负弱者呢。”

4.2 『「のだ」をともなう説明の文が、あい手の話しにさしだされる出来事から、べつの

出来事をおしはかって、それをあい手におしえ(奥田:187)」る場合がある。

(34)「わたしに失礼なことばかりいうの。へんな奴よ。どうして、あんなの、邸におくのか、わからないわ。」「黒谷は君にほれているんだな。」(けものみち、奥田 2001:187)

(35)「病院からかえって、すっかり横着になりましたのよ。」と、民子は秦野につげた。  
「民子さんの世話なら、先生もおとなしいんだな。」(けものみち、奥田 2001:187)

(36)「いやいや、かくさんでもいい。小滝のことが心配でしょうがないんだろう。顔にでているぜ。」(けものみち、奥田 2001:188)

訳:

(34) “看来黒谷(是)爱上你啦。”

○(35) “要是民子照顾,先生也是会安安静静的吧。” (“是……的 (2)”) <sup>3)</sup>

○(36) “你是非常担心小滝的吧。” (“是……的 (2)”)

第 4.2 節の「のだ」は、“是……的 (2)” に対応する例文がある。“是……的 (2)” とは、すでに実現済みの出来事、かつ未知の部分に焦点をあてて説明する場合を除いたその他の場合を指す。基本的に推定(断定)、性格づけ(種類づけ)を表す場合である。

4.3 「『のだ』をともなう文は、ある対象の恒常的な、一般的な、本質的な特徴をさしだして、その対象の具体的な動作の必然を論理的にあきらかにする、というようなばあいがある(奥田:188)」。

(37)「ああ、象がいる。ぼく、象はみたことあるよ。象ってとても俐口なんだね。象をいじめたりすると、五年でも十年でもおぼえていて、いつかきつと仇うちするんだってね。」(洒落た関係、奥田 2001:188)

(38)「あんな若い娘をすきなだけのしんでおいて、あますぎるとか、なんとか、あとから文句をいってるのね。先生みたいな人に心を許したら、女はめっちゃめっちゃにされてしまうわ。」「それは誤解だね。わたしは女がすきなんだよ。すきなものをめっちゃめっちゃするはずはない。」洒落た関係、奥田 2001:188)

訳:

○(37) “你看,大象。我以前见过大象。大象是很聪明的呢。……” (“是……的 (2)”)

○(38) “你这是误解。我是特别喜欢女人的。……” (“是……的 (2)”)

例(35)(36)(37)(38)は、主語に対しての性質的な評価、または性格づけを表しているが、“是……的 (2)” との対応性が認められる。また、訳された“是……的 (2)” によって、聞き手にそれを受け入れてもらう、または納得してもらうという原文とほぼ同様な断定的

<sup>3)</sup> “是……的 (2)” について、呂叔湘 (2010: 497-499)・刘月华 (2009: 762-784) を参照。

な語気も表している。<sup>4)</sup> さらに“是……的 (2)”を外すと、一般的な述べ方になるが、非文にはならない。

## 5 理由の説明(その1)

5.1 奥田(2001)によれば、「まえにのべているように、疑問詞の『なぜ』をふくみこむたずねる文にこたえて、『のだ』をとまなう説明の文は『理由の説明』としてはたらいっている(奥田:188)」という。また、「ところで、まるごとのたずねる文のぼあいでもそのあとに、理由の説明であるところの、『のだ』をとまなう文があらわれてくるようにみえる。しかし、たずねる文と説明の文との中間に『はい・いいえ』がはいりこんでいて、ふたつの文のあいだに直接的なつながりはない(奥田:189)」と述べている。この場合、直接的なつながりがなくても肯定する、否定することの理由をさしだしている。

(39) 「お留守中でびっくりしたでしょう……火元はおたくですが、あなたのほうではずっと夜なかでも、七輪に火をのこしておくんですか?」「はい……主人がずっとねたつきりなもんですから、火鉢の火ではこたえないんです。それで、おせきさんがかえるときに、いつも七輪にたどんをおこしておいてくれるんですの。」(けものみち、奥田 2001: 189)

(40) 「ここで今夜野宿なさるんですか?」「ええ、もうどこにもしりあいもございませんし、野宿することにきめたんです。」(杏っ子、奥田 2001: 189)

訳:

○(39) “你就是在深夜也一直生着炭火吗?” “是的,……我丈夫一直卧床不起,所以仅靠火盆是难以御寒的。” (“是……的 (2)”)

(40) “今晚你就在这儿露宿野外吗?” “是的,这一带也没有什么熟人,所以就决定露宿野外了。”

5.2 たずねる文と答える文の中間に「はい・いいえ」がはいりこんでいない場合もある。

(41) 「なにかご主人が自殺なさるような動機とか原因とかいうもので、お心当たりはありませんか?」「私はとても自殺だなんて思えないんです。きっとあやまっておちたんですね。」(金環蝕、奥田 2001: 189)

(42) 「あなた、のんでるのね。」……「はやくかえろうと思ったんだがね、つい新宿でのみすぎちゃったんだ。」(凍てる土、奥田 2001: 189)

訳:

○(41) “你能想起一些你丈夫自杀的动机和原因吗?” “我是怎么也不认为他是自杀的。一定是不小心掉下去的。” (“是……的 (2)”)

(42) “你呀,喝酒了吧。” “我本想早点儿回家,但还是忍不住喝多啦。”

<sup>4)</sup> 刘月华(2009: 771)を参照。

5.3 先行するたずねる文にさしだされる出来事の現実性を否定する場合がある。

- (43) 「もし、そのあいだにほかのお客さんがいたら、おわたししてもよろしいですね。」「そんなにはやく借り手が見つからないだろう。」「いえ、いえ。いまのところ、うちだけで十組ちかくまっているんです。あなたもそれはみましたよね。」(化身、奥田 2001 : 190)
- (44) 「あら、どこかに御旅行？」「そういえば、秦野はおおきなカバンをもっている。」「いや、ちょっと人をむかえにゆくのだ。大阪からくる人間がいてね。……」(けものみち、奥田 2001 : 190)

訳:

- (43) “不，不。现在光我们这儿就有十组在等着呢。你也看到啦。”  
(44) “不，我(是)去接一下儿人。有客人从大阪来。”

5.4 先行するたずねる文が後続する説明の文の話し手に対して、動作へとさそいかける場合がある。

- (45) 「……あなた、これから家へいらっしゃらない。だあれもないの、いま。アイスクリームつくったわ。いらっしゃいよ。」「だめなんだ。これから用事があるんだ。」(ガラスの靴、奥田 2001 : 190)
- (46) 「あんた、どこか怪我ないの?」「うん、すりむきだけだ。」「うち身になるといけないから、お医者へ行かない?」「いいよ、いたくないんだ。」(おとうと、奥田 2001 : 190)

訳:

- (45) “……你现在到我家来吧。……” “不行呀。我还有事儿呢。”  
(46) “肿了就不好了，去看医生吧。” “没事儿，一点儿也不疼。”

5.5 疑問(うたがひ)へのなげかけというたずねる文が先行する場合がある。

- (47) 「みょうな時間にへんなところにきているのね?」「だって、わたしはこの家ではゆき場がないんですもの。せめて、ここぐらいはすわって考えさせてください。」(けものみち、奥田 2001 : 191)
- (48) 「あまりのんでいませんのね。宴会なら、いつももっとのんでかえるはずでしょう。」「肝臓を用心してるんだよ。なにをうたがっているんだ、おまえは。」(洒落た関係、奥田 2001 : 191)

訳:

- (47) “你怎么在这个时间来到这令人起疑的地方啊?” “可是,我在这家里是没有容身之处的嘛。……” (“是……的(2)”)  
(48) “你不怎么喝酒啊?我记得每次酒会上,你好像都比今天喝得多呀?” “我(是)在注意

肝脏呢。在怀疑什么，你。”

5.6 先行する文が判断の表現になっている場合がある。説明の文は弁明めている。

(49) 「小滝君、今日、これから例のところゆこうと思っている。この人をちょいとつれてってもいいだろうな？」

「さあ、それはわたくしの許可の範囲ではないようですね。ご当人にどうぞ。」

「なんだ、まだいってないのか？」

「先生はよく気が変わりますからな。まえもっていっても、むだになることがあります。」

「いそがしいのだ。」(けものみち、奥田 2001 : 192)

訳:

(49) “……。就是提前跟你说了,有时也是白说。” “太忙啦”

第5節の例(39)(41)(47)は、“是……的〈2〉”との対応性がみられる。原文の話し手の判断や考えなどを性格づけの側面から強く述べるという特性を訳文の“是……的〈2〉”によって表されている。第4節で述べたように、この場合、“是……的〈2〉”を次のように外しても、一般的な述べ方に変わるだけで、非文にはならない。

○(39) “是的,……我丈夫一直卧床不起,所以仅靠火盆难以御寒。”

○(41) “我是怎么也不认为他是自杀的。一定不小心掉下去了。”

○(47) “可是,我在这家里没有容身之处嘛。……”

## 6 理由の説明(その2 — 動機・根拠 —)

6.1 「あい手に動作の実行を求めている、命令文が先行しているばあい(奥田:192)」がある。この場合、「その命令文の話し手は、それにつづく、『のだ』をともなう説明の文によって、その命令することへの根拠、動機を明らかにする(奥田:192)」。

(50) 「すぐかえってきてください。奥様がたおれたのです。」(化身、奥田 2001 : 192)

(51) 「姉さん！十銭でなにかくわしてくんないかな。十銭玉ひとつしかないんだ。」(放浪記、奥田 2001 : 192)

(52) 「ねえ、健ちゃん。お前さん今度の船にのるの、やめにしてくれよ。さびしいんだよ。さびしいんだよ。……」(若い人、奥田 2001 : 192)

訳:

(50) “请你马上回去。夫人病倒啦。”

(51) “大姐！十块钱能吃点儿什么？我现在只有十块钱。”

○(52) “哎,健健。你不要坐这次的船走了。我是会寂寞的。我肯定是会寂寞的。” (“是……的〈2〉”)

6.2 先行する文が感情とか欲求とか決心とかの表現になっている場合がある。「のだ」をともなう文は、その感情などを呼び起こす出来事をさしだす。

(53) 「おどろいたよ、綾ちゃん。なにげなしにさ、ここをみたら、三浦綾子という字が、一番さきに目にとびこんできたんだよ。」(この土の器をも、奥田 2001: 193)

(54) 「心配だわ。」「先方にあうことかい?」「だって、どんな方か、さっぱり説明していただけないんですもの。胸がどきどきします。」(けものみち、奥田 2001: 193)

訳:

(53) “真让人大吃一惊, 綾子。我无意中往这里一看, 三浦綾子的名字一下子就飞进了我的眼里啦。”

(54) “实在让人着急啊。”“因为根本不告诉我对方的情况。我心里总觉得不踏实。”

6.3 「先行する文が判断の表現になっていて、つづく『のだ』をともなう文が、そう判断することの根拠をさしだすばあいもある(奥田:194)」。

(55) 「どうも食欲が出ない。」「つかれているのね。あんまりはたらきすぎるからそうなるんだわ。……」(けものみち、奥田 2001: 194)

訳:

○(55) “你(是)累啦。工作上过度劳累的话, 就是会这样的呢。” (“是……的〈2〉”)

次は先行する文が疑問文で、「のだ」をともなう説明の文がその根拠をさしだす場合がある。

(56) 「尾崎先生、あるけますか？ひどい道なんだ。」(人間の壁、奥田 2001: 194)

訳:

(56) “尾崎先生, 能走吗? 路很不好走。”

6.4 「『のだ』をともなう説明の文で、原因としての出来事をさしだすばあいがある(奥田:194)」。

(57) 「池にこいがいるよ。」秦野がいった。「まえにはにじますもかっていたのだが、これはやっぱり水質にあわなかったんだな。あれは温度の調節がたいへんだ。」(けものみち、奥田 2001: 194)

訳:

(57) “这还是因为水质不合吧。其温度的调节非常难。”

目的の例もある。

(58) ある日、浪江は、杉原のいいつけた用事をすましたあとで、「お客さんは梅の花でもみにおいでになるんですか?」……「富士をみにくるんだよ。池新田からは富士はみえないね。」(銀心中、奥田 2001: 195)

訳:

(58) “他们是来看富士山。在池新田看不见富士山吧。”

(58´) “他们是来看富士山的。在池新田看不见富士山吧。” (“是……的〈1〉”)

(58´)の訳文だと、すでに実現済みの出来事で、日本語原文の訳としては不適格だろう。

6.5 「のだ」をともなう説明の文が結果として出来事をさしだす場合がある。

(59) 「わたし、お肉はほとんどたべなくても平気です。」「だから、肌がきれいなのだ。」

(化身、奥田 2001 : 196)

訳:

(59) “所以, 皮肤很漂亮。”

6.6 話し手がすでにふたつの出来事、これらのあいだの因果関係を承知している場合がある。

(60) 「さて、さて。いまからそんなにつけつけと男の悪口をいうもんじゃないよ。だから、岡部君は二の足をふむんだ。……」(洒落た関係、奥田 2001 : 196)

(61) 「だれにもいってありません。一応、ひとりだといって、つかってもらっています。でないとかとってくれないもんですから、でも、おかみさんにはうすうすわかっているんじゃないかと思います。ああいうところではたらいっている女中さんは、みんな、それぞれ事情がありますから、それであんまりきびしくは追及されないんです。」(けものみち、奥田 2001 : 196)

訳:

○(60) “……。正因如此, 冈部才犹豫不决的。……” (“是……的〈2〉”)

○(61) “……, 所以才不怎么被深究的。” (“是……的〈2〉”)

第 6 節における対応性が見られる例文の訳文も、第 5 節と同様に、“是……的〈2〉”を外すと一般的な述べ方に変わり、非文にはならない。

## 7 現象の本質の特徴—派生的な場合

7.1 『のだ』をともなう文が、人や物、出来事にたいする評価をおこなっているばあいがある(奥田:197)。

(62) 「ぼくは純潔な女性と結婚したいと思っています。ですからぼくも純潔であるべき義務があると思うんです。」「そういうのを野暮というんだよ。」(洒落た関係、奥田 2001 : 197)

(63) 「……どれ、おまえの手をこっちにだしてごらん。「いやですわ。こんな格好では、手はのぼされませんもの。無理をすると、あなたの手に変なことをされそうですわ。」「ずいぶん用心ぶかいんだな。」(けものみち、奥田 2001 : 197)

訳:

(62) “这就叫做愚蠢呢。”

○(63) “你挺小心谨慎的呢。” (“是……的 (2)”)

#### 7.2 「のだ」文で反対の態度を表す。

(64) 「ひさしぶりだな、蘭子……」と、栗山がいった。「なん年ぶりかしら。先生がつめたいからよ。」「お前がつめたいんだ。」 (洒落た関係、奥田 2001 : 197)

訳:

(64) “是你冷漠呀。”

#### 7.3 評価的な判断を下す場合がある。

(65) 「いやだわ、こんな家。東京がだめだったら、横浜でも箱根でも熱海でもいいじゃないの?」「そういうところがかえってあぶないのだ。」 (けものみち、奥田 2001 : 198)

(66) 「君、体重どのくらいある?」「そうね、これで五十二キロぐらいかしら。」「ずいぶんこえてるんだな。」 (けものみち、奥田 2001 : 198)

訳:

○(65) “这种地方反而是会更加危险的。” (“是……的 (2)”)

(66) “(是)太胖了啊。”

#### 7.4 反対意見としての「のだ」をともなう文が使われる場合がある。これは、話し手の意見とあい手の意見が食い違っている場合である。

(67) 「わたし二十五歳にみえますか?」「もちろん。」「やっぱりとしをとったのかなあ。」「そうではなく、女になったんだ。」 (化身、奥田 2001 : 199)

(68) 「ふむ、君をおいだして、密談しているわけだね?」「わたしのほうが遠慮しているんですよ。」 (けものみち、奥田 2001 : 199)

訳:

(67) “不是的, (是)更有女人味儿啦。”

○(68) “是我有意避开的。” (“是……的 (2)”)

#### 7.5 自分の意見と対立する他人の意見が述べられる場合がある。

(69) 「あなたはこういうのを子どものヒューマニズムだと思っているんでしょう。」と、彼はいった「そうじゃないんですよ。これはね、長欠の劣等生にたいする優越感なんだ。優越をうらがえした親切ごころですよ。……」 (人間の壁、奥田 2001 : 199)

訳:



(69) “……。这呀，就是对长期旷课的劣等生的优越感。……。”

7.6 評価的な判断の場合であるが、これは、話しあいの当事者にとって重大な意味がある。

(70) 「お酒をあげましょうか。」秋葉はのむ気はなかったが、母はすでに用意をしていたらしい。畑のついた銚子をもってきて、盃についでくれる。八十ちかい母から五十の男が酒をついでもらうのも妙な光景だが、母にとってはそれが息子の誕生日をいわう儀式のつもりらしい。

「五十になったんですね。」「まったくはやくて、いやになる。」(化身、奥田 2001 : 200)

訳:

(70) “你都五十啦。”

第7節における対応性のみられる例文の訳文も、やはり第5節と同様に、“是……的(2)”を外すと一般的な述べ方に変わるが、非文にはならない。

## 8 論理の展開過程での場合

奥田(2001)によれば、「論理の展開過程において、「のだ」を伴う説明の文がしばしばあらわれてくる(奥田:200)」という。

8.1 「のだ」をともなう文が現象そのものの持っている本質の特性を表す場合がある。

(71) 「脳軟化症ですね。脳の毛細管に血がつまるんです。」(けものみち、奥田 2001 : 200)

訳:

(71) “这是脑软化症。就是大脑的毛细血管出现血堵。”

8.2 「のだ」をともなう文がさしだす出来事が例示としてはたらく場合がある。

(72) 「……はははは。むかしから疑心暗鬼を生ずるといってな、うたがって考えれば、なんだってあやしくみえてくる。すすきの花がお化けにみえるんだ。……」(洒落た関係、奥田 2001 : 201)

訳:

○(72) “……哈哈哈。……，用怀疑的眼光看，什么都觉得可疑。芒草花看起来都是会像鬼怪的呢。” (“是……的(2)”)

8.3 次は、先行する文が評価的な判断をさしだし、後続する「のだ」文がその判断を支持する根拠としての事実をさしだしている。

(73) 「その点、目教組の中執も県教組の執行委員も意気地がないな。自分たちが首き

られるのがこわいもんだから、合法運動から一步もふみだせないんだ。……」(人間の壁、奥田 2001 : 201)

訳:

○(73) “在這一点上,日教組中執和县教組執行委員都沒有胆量。他們都是怕自己被炒了魷魚而不敢从合法运动中迈出一步的。” (“是……的〈2〉”)

8.4 「具体的な現象をさしだしながら、それにたいする本質的な特徴づけを、『のだ』をとまなう文のなかにあたえている、というようなばあいもある(奥田:201)」。

(74) 「……だから、恋愛時代には一生けんめいになるが、それが、女房ときまってしまうと、つまらなくなる。そして、よそで浮気を試してみたくなる。つまり、つねにたたかいと略奪とをもとめているんだ。……」(洒落た関係、奥田 2001 : 201)

訳:

(74) “……。就是说不断去寻求挑战和掠夺。……”

8.5 「ぎゃくに、ある人物の本質的な特徴づけが、先行する『のだ』をとまなう文のなかにさしだされているばあいもある。そして、それにつづく後続する文がその人物の具体的な場面のなかにおける動作なり状態・態度をさしだす(奥田:201)」。

(75) 「……私はね、君の人柄を愛し、君の自由な生き方を愛しているんだよ。したがって、君がどんな美青年のもとにはしろうと、どんなつばめと愛の巣をもとうと、私の気持ちはかわらないね。……」(洒落た関係、奥田 2001 : 202)

訳:

(75) “……。我呀,喜欢你的人品,也喜欢你那自由的生活方式呢。所以,……。”

第8節の“是……的〈2〉”との対応性が認められる例文の訳文もやはり第5節と同様に、“是……的〈2〉”を外しても一般的な述べ方に変わるだけで、非文にはならない。

## 9 奥田論文の7つの用法に対する対応性

本論文の第2~8節の節番号を以下のようにそのまま再掲して、両言語の対応関係を考えてみる。

### 2. 基本用法

2.1 未知の部分(既実現済みに限って対応する場合が多い)

2.2 原因、理由(基本的に対応しない)

2.3 「どうして?」・「どうするんだ?」・「あれはなんだ?」で尋ねる場合(基本的に対応しない)

2.4 命令(、すすめ、さそいかけ、忠告など)の場合(基本的に対応しない)

### 3. 重大な意味を教える場合

実現済みの未知の部分の場合のみ対応する場合がある。

4. 特徴づけに使用される場合

“是……的〈2〉”に対応する場合がある。

5. 理由の説明(その1)

“是……的〈2〉”に対応する場合がある。

6. 理由の説明(その2—動機・根拠—)

“是……的〈2〉”に対応する場合がある。

7. 現象の本質の特徴—派生的な場合

“是……的〈2〉”に対応する場合がある。

8. 論理の展開過程での場合

“是……的〈2〉”に対応する場合がある。

## 10 日本語の「のだ」文と中国語の“是……的”文の異同

10.1 会話における日本語の「のだ」文と中国語の“是……的”文は、いずれも「たずねる・おしえる」という通達の構造の中で用いられるのが基本である。

10.2 用法の広がりからみれば、日本語の「のだ」文のほうが圧倒的に多い。先行研究によれば、対応関係のある例文が20%前後(王亜新1997)という。奥田論文では全部123例挙げられているが、中国語の“是……的”文と対応すると思われる例文は25例であり、約20.3%である。

10.3 部分性(未知の部分)と全体性(出来事そのものをさしだす)における日本語の「のだ」文と中国語の“是……的”文の違いは明らかである。

10.4 条件づけと条件づけられ(因果関係など)の場合、日本語の「のだ」文の使用は可能であるが、中国語の“是……的”文は基本的に使用されない。

10.5 話し手の判断・考えなどの側面から、両言語は、(日本語の「のだ」文と中国語の“是……的”文が)どのような対応性があるのかをさらに検討するのが有意義であろう。実際対応性が見られる例文が少なくない。

10.6 既に実現済みの出来事に限って言えば、未知の部分の場合、対応性がみられる。しかし、次の現象に対してどのように説明するのだろうか。例文は筆者の作例である。

(你是什么时候来的?)我是昨天来的。 (～のですか? ～したか?) ～のです。 ～した。

(他是从哪儿来的?)他是从北京来的。 (～のですか? ～したか?) ～のです。 ～した。

(你们是坐什么来的上海?)我们是坐高铁来的上海。(～のですか? ～したか?) ～のです。 ～した。

(你是跟谁一起来的中国?)我是跟小张一起来的中国。(～のですか? ～したか?)～のです。～した。

(你们是在哪儿照的相?)我们是在公园照的相。 (～のですか? ～したか?) ～のです。 ～した。

(你是在哪儿见到他的?) 我是在校门口见到他的。(～のですか? ～したか?) ～のです。～した。  
(小李, 小红怎么没来学校呢?) 啊, 小红感冒了。(～のですか? ～したか?) ～のです。～した。

以上の中国語の例文を日本語に訳すと、括弧の中のたずねる文は「～のですか」に訳される場合が多いだろう。それに対して、おしえる文は「～のです」に訳される場合もあれば「～した」に訳される場合もある。「～した」の訳文のほうがより自然的だと感じる場合も少なくない。上記の例文の最後の例文は、“是……的”文の使用が難しいが、逆に「のだ」文に訳することができる。実際、初級中国教科書では、一般的に、“是……的”文は日本語の「のだ」文に対応すると説明されている。つまり、両言語の上記の異同が説明されていないということになる。そうすると、教授者からの上記の異同に対する何らかの対策が求められると思われる。

10.7 奥田論文の例文と対応する中国語の訳文から見れば、その中国語の“是……的”文を2類に分けることができると思われる。1つは、未知の部分の場合であり、もう1つは、話し手が自分の判断や考えなどで、ある事柄に対して性格的にさだめるという性格づけの場合である。

## 11 おわりに

奥田(2001)の「のだ」文の用法の広がりとその例文の中国語訳から見れば、日本語の「のだ」文と中国語の“是……的”文との対応関係を一層慎重に見極めなければならないと思われる。両者は、対応している例文が2割前後あるものの、対応しない例文が圧倒的に多い。筆者は、今後、「たずねる文に用いられる両者の対応関係」、「原因・理由を含意する文に用いられる両者の対応関係」、「未知の部分に用いる場合の両者の対応関係」、「性格づけを表す文に用いる場合の両者の対応関係」、「『のだ』文と“是……的”文の否定形式」などのテーマで、「のだ」文と“是……的”文の対照研究をさらに深めていきたいと考えている。なお、次の例文からみれば、中国語でも理由・原因に用いられる場合も説明的な実情を表す場合もあると思われる。

- i. A. 啊! 小王这么早就到了。B. 为了早点儿见着您, 我是专门做出租来的。(部分、原因・理由)
- ii. (其实) 我是不想告诉你这件事的。
- iii. (其实) 我是很想把这件事告诉她的。
- iv. ぼく、大きくなったらパイロットになるのだ。(田野村忠温 2002: 7)  
/我长大以后要当飞行员呢。/我长大以后是要当飞行员的呢。(訳: 王)

例(i)は部分の例としても原因・理由の例としても可能であり、例(ii, iii, iv)は実情を吐露する場合であろう。田野村(2002: 6-7)によれば、「のだ」文は、「背後の事情を表す」だけでなく、「ある実情を表す」場合もある。

#### 引用文献

- 吕 叔湘 (2010) 《现代汉语八百词(增订本)》商务印书馆:497-499.
- 刘 月华 (2009) 《实用现代汉语语法(增订本)》商务印书馆:762-784.
- 王 亚新 (1998) “のだ”的语义特征以及陈述语气(《日语学习与研究》第2期):33-41.
- 奥田靖雄 (2001) 説明(その4)一話しあいのなかでの「のだ」—(『ことばの科学10』むぎ書房:175-202.
- 田野村忠温(2002) 『現代日本語の文法I「のだ」の意味用法』和泉書院.